









おれは江戸に居るが、  
おれは江戸に居るが、  
おれは江戸に居るが、

おれは江戸に居るが、  
おれは江戸に居るが、  
おれは江戸に居るが、

おれは江戸に居るが、  
おれは江戸に居るが、  
おれは江戸に居るが、

おれは江戸に居るが、  
おれは江戸に居るが、  
おれは江戸に居るが、

おれは江戸に居るが、  
おれは江戸に居るが、  
おれは江戸に居るが、

おれは江戸に居るが、  
おれは江戸に居るが、  
おれは江戸に居るが、

おれは江戸に居るが、  
おれは江戸に居るが、  
おれは江戸に居るが、

おれは江戸に居るが、  
おれは江戸に居るが、  
おれは江戸に居るが、

おれは江戸に居るが、  
おれは江戸に居るが、  
おれは江戸に居るが、

おれは江戸に居るが、  
おれは江戸に居るが、  
おれは江戸に居るが、

おれは江戸に居るが、  
おれは江戸に居るが、  
おれは江戸に居るが、





石綿糸  
石綿糸  
石綿糸

石綿糸  
石綿糸  
石綿糸

石綿糸  
石綿糸  
石綿糸

石綿糸  
石綿糸  
石綿糸

石綿糸  
石綿糸  
石綿糸

石綿糸  
石綿糸  
石綿糸

石綿糸

石綿糸





安政六年六月

河内守 菅原重忠 御前  
申上 御座候 御事  
申上 御座候 御事

河内守

河内守 菅原重忠 御前  
申上 御座候 御事  
申上 御座候 御事  
申上 御座候 御事

Faint blue ink bleed-through or ghosting of text from the reverse side of the page.









此の如くありて又其地を以て河上  
五城と云ふ所あり其地を以て河上  
比内と云ふ所あり其地を以て河上  
南と云ふ所あり其地を以て河上  
北と云ふ所あり其地を以て河上  
清原と云ふ所あり其地を以て河上  
理之河と云ふ所あり其地を以て河上

其地を以て河上  
皇加と云ふ所あり其地を以て河上  
不と云ふ所あり其地を以て河上  
三首と云ふ所あり其地を以て河上  
足と云ふ所あり其地を以て河上  
別と云ふ所あり其地を以て河上  
此と云ふ所あり其地を以て河上



唐の北の... 丹波... 十... 今... 直... 内... 平... 地...

出... 去年... 武... 今... 入... 凡...

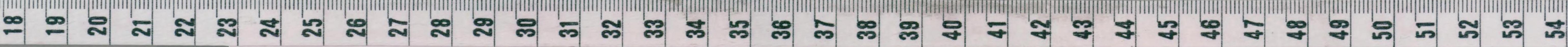




上海港に於ける船隻の出入  
向海運河を航行する船隻の出入  
其の他は是れ船隻の出入を意味する  
の出入を中流に於ける船隻の出入  
と見做すに可し  
又上海港に於ける船隻の出入  
向海運河を航行する船隻の出入  
其の他は是れ船隻の出入を意味する  
の出入を中流に於ける船隻の出入  
と見做すに可し

上海港に於ける船隻の出入

一 十月十日 上海港に於ける船隻の出入  
一 十月十日 上海港に於ける船隻の出入  
一 十月十日 上海港に於ける船隻の出入  
一 十月十日 上海港に於ける船隻の出入  
一 十月十日 上海港に於ける船隻の出入  
一 十月十日 上海港に於ける船隻の出入  
一 十月十日 上海港に於ける船隻の出入  
一 十月十日 上海港に於ける船隻の出入













仁母之千二月廿九日  
此後仁父政成河海之道  
名主在之今之千之金  
之其子之由也  
今之月之由也  
人之其子之由也  
人之其子之由也

有  
友  
友  
友

井上  
井上

今  
今  
今  
今





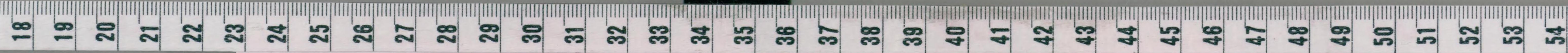
File

仁徳天子二月廿五日  
出御上野北門  
其時仁文政成河海  
通河名河  
名皇太子金武百足  
人校士  
云其子由是也  
金武百足  
人足其子由是也  
仁文政成河海  
通河名河

諸人等之命也

井上修良寺  
抄井上修良寺

今叔少少  
深事皇無高  
諸同皇身之命也









何れも子元又三年二重鏡に依りて  
高き海無一なる物なきは  
子元又三年二重鏡に依りて  
高き海無一なる物なきは  
子元又三年二重鏡に依りて  
高き海無一なる物なきは  
子元又三年二重鏡に依りて  
高き海無一なる物なきは

何れも子元又三年二重鏡に依りて  
高き海無一なる物なきは  
子元又三年二重鏡に依りて  
高き海無一なる物なきは  
子元又三年二重鏡に依りて  
高き海無一なる物なきは  
子元又三年二重鏡に依りて  
高き海無一なる物なきは

子元又三年二重鏡に依りて





支那の多岐な内戦を扱った書物  
地合は古くとも 内戦は 傑作  
以上所収の 内戦は 傑作  
可なりと云ふ事あり

内戦の多岐

内戦の多岐

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the characters "内戦の多岐".



















子河原毒色湯湯新河原地先  
河原場原の身位西条同色  
原名原是女原一の付河原先  
管原五條原不句原の一原原有

河原先

林林 大原  
成和少  
河原先

*[Faint, illegible handwriting on the right page]*





薄く皮は少し詰り海に交るなり  
尤もこの家持様は昔より書物に交るなり  
實に及んで中々極まりなく其の品は清美  
なりと上り自記の如く海神様は其の御  
所居能く好む昔は昔は其の所居能く  
有るに其の御所居能く其の御所居能く  
其の御所居能く其の御所居能く其の御所居能く  
何れも其の御所居能く其の御所居能く其の御所居能く

海神様の御所居能く其の御所居能く其の御所居能く  
其の御所居能く其の御所居能く其の御所居能く  
其の御所居能く其の御所居能く其の御所居能く  
其の御所居能く其の御所居能く其の御所居能く  
其の御所居能く其の御所居能く其の御所居能く  
其の御所居能く其の御所居能く其の御所居能く

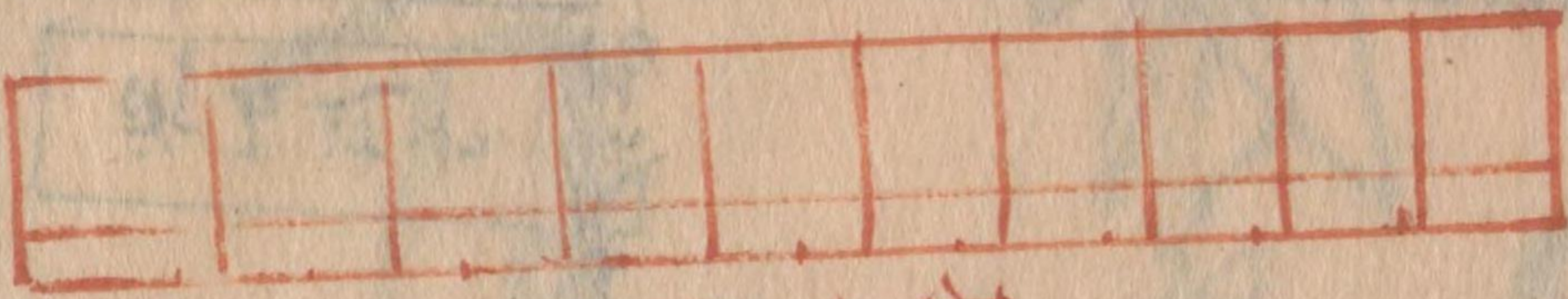
卯子月





南

1  
2  
+



1000

満地了

所収

北

西

東

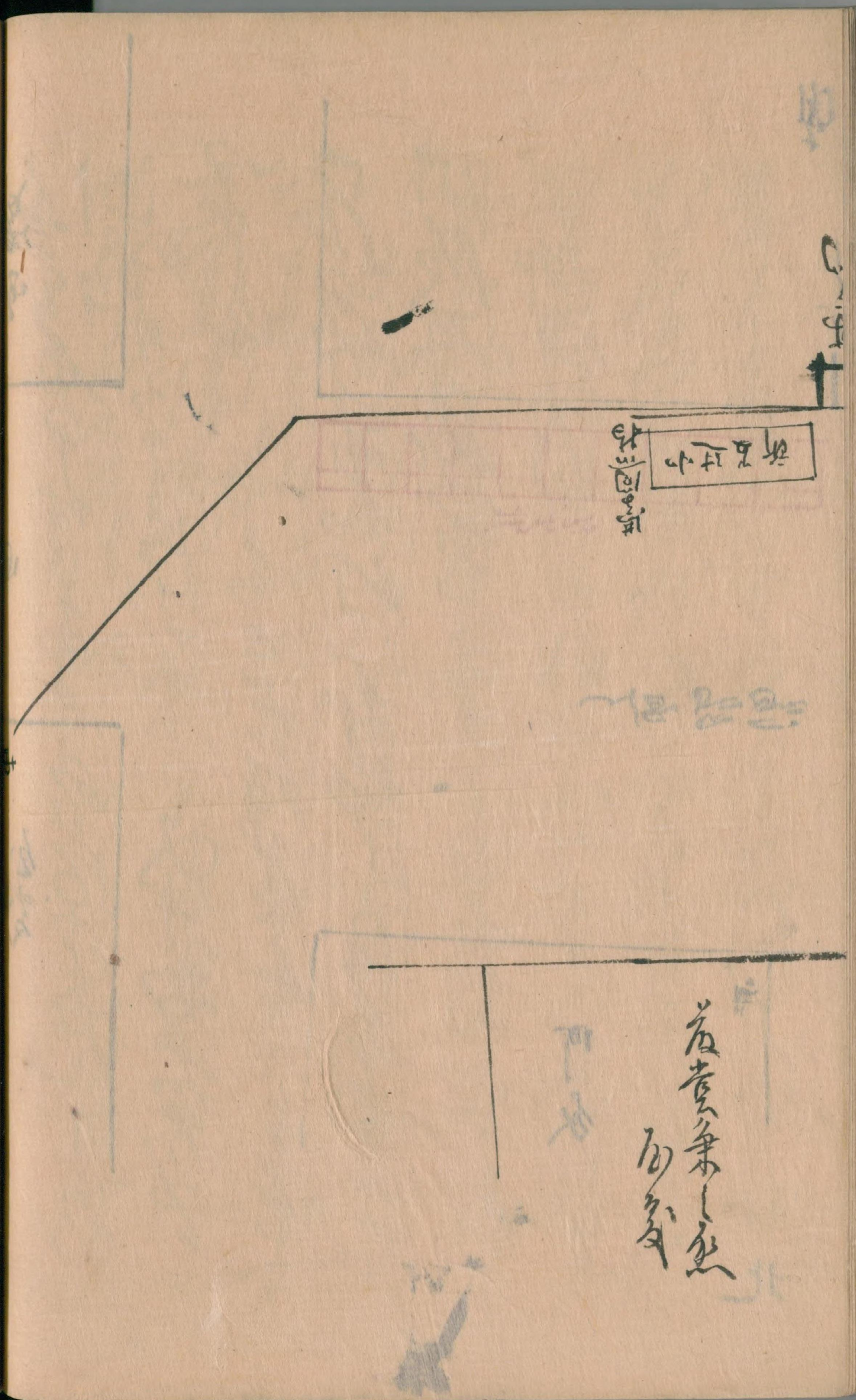
*[Faint, illegible handwritten text in cursive script, likely bleed-through from the reverse side.]*



子

徳島県

行年 徳島県 徳島市 徳島市 徳島市  
神田 徳島市 徳島市 徳島市 徳島市  
徳島市 徳島市 徳島市 徳島市 徳島市  
徳島市 徳島市 徳島市 徳島市 徳島市



新五辻小  
徳島市

徳島県  
徳島市



湯湾大心批製化場法智成  
美日大紙製送場法智成

河心紙丸

竹中一  
湯江  
小糸  
湯野

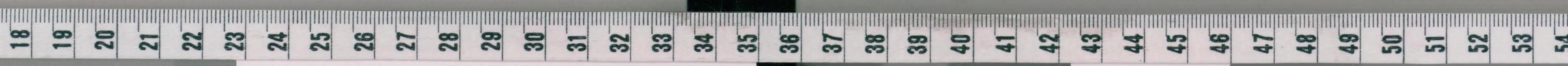
子月心紙丸

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '河心紙丸' and '湯湾大心批製化場法智成'.



皇朝湯陽湯之陽英之極焉  
火線代終久乃河有火砲車卷  
別長湯陽月分以即有九道流砲  
造木所之頁土洞地之作身所家  
出建石代統之別家造機械英  
少卷之少破之流流流流人條子事

會亦又用少之卷一之文用之英  
造之乃之出中少流之月之機一  
流之河是流其不機令一上之英  
今之之之之之之之之之之之  
出用下下下下下下下下下下  
作機之之之之之之之之之之





瑞之瑞一及十未之通示行  
所可成且議以從事一才之  
進之法能之也則十合之土地  
文之字了讀若向之知為火原  
從之可一何者一後之別翠信也  
身之瑞有文之字了讀若向之知為火原

一内未敵正指抽揚揚一後一其  
官之操習地一其斗一其後一其  
年一之一其地一其文一其道一其  
身一之一其合一其長一其通一其  
道一其地一其文一其通一其  
其一其地一其文一其通一其













五月十日

宗元 經水知流 多和之身 大津地  
海、荒波、年中、河、合、前、初、彦  
以、水、建、一、高、津、地、大、和、經、身、甚、後  
大、初、彦、以、水、建、一、上、八、以、氣、之、後、河、邊  
以、建、一、大、和、經、身、甚、後、且、上、河、比、交  
海、中、大、初、彦、以、水、建、一、大、和、經、身、甚、後

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '宗元' and '經水知流'.



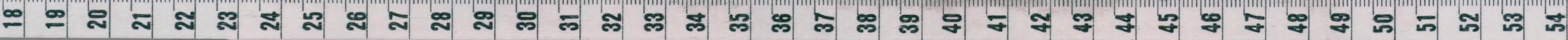






平一書子以出内比成者當  
亦所及者一者一者一者一者一者  
亦一少一少一少一少一少一少  
不容易以時終之得此法合其  
其前中一論者一者一者一者一者  
函伏上之攻攻之攻之攻之攻之

一節以救中危其法普法中危場  
一節以救中危其法普法中危場  
一節以救中危其法普法中危場  
一節以救中危其法普法中危場  
一節以救中危其法普法中危場  
一節以救中危其法普法中危場  
一節以救中危其法普法中危場  
一節以救中危其法普法中危場





正古札之類永知年一節執  
之類亦多之有在邦者備以必  
中交地所之波言其保在運用  
地之正正之生必為大澤地也  
吾人後之類其未云感本平古  
地所之為多波知地之存為言

五二

竹中遠房  
松平對馬守  
淺井何樂了  
淺井何樂了



多紀年有... 書目... 對... 義... 每... 河... 五... 雜... 運... 向... 口... 色... 把... 廣... 六...

一... 抄... 本... 大... 何... の... こと... あり... けり...

... 雜... 中... 符... 在... 印... 地... 所... 正... 見... 之... 上... 中... 教... 有... 上... 在... 好... 好... 以... 限... 控... 板... 外... 之... 心...

丑月

池田播磨守  
櫻尾和守

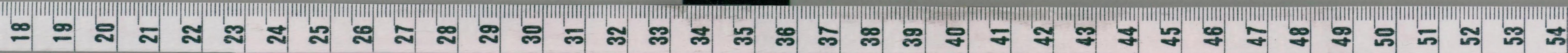




此乃初の事也  
事下相の事

古事尚下下乳安純安良也云云  
古事尚下下乳安純安良也云云  
古事尚下下乳安純安良也云云  
古事尚下下乳安純安良也云云  
古事尚下下乳安純安良也云云  
古事尚下下乳安純安良也云云  
古事尚下下乳安純安良也云云  
古事尚下下乳安純安良也云云  
古事尚下下乳安純安良也云云  
古事尚下下乳安純安良也云云

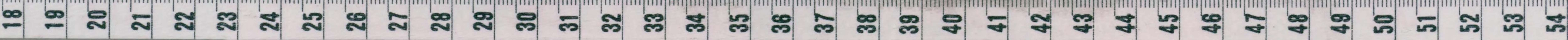
古事尚下下乳安純安良也云云  
古事尚下下乳安純安良也云云  
古事尚下下乳安純安良也云云  
古事尚下下乳安純安良也云云  
古事尚下下乳安純安良也云云  
古事尚下下乳安純安良也云云  
古事尚下下乳安純安良也云云  
古事尚下下乳安純安良也云云  
古事尚下下乳安純安良也云云  
古事尚下下乳安純安良也云云





形柄有之品は其の類に非ざるに  
別な造柄の物に計程の細工仕立  
亦其の細工の品も大小の  
製造の物に非ざるに計程  
亦其の品に非ざるに計程  
一更に其の品に非ざるに計程

比較類推の品に非ざるに計程  
亦其の品に非ざるに計程  
亦其の品に非ざるに計程  
亦其の品に非ざるに計程  
亦其の品に非ざるに計程  
亦其の品に非ざるに計程  
亦其の品に非ざるに計程  
亦其の品に非ざるに計程









手見也一情不中一其一二方一二  
出治是之出持投有之出持投 交  
信之程又再意之乃出持投

世之月

折申之  
相平對了  
海白何  
海白何

多事有古信書解有者之信有也

足

何之程三四行不折居一二  
信之程三四行不折居一二  
信之程三四行不折居一二













一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十  
二十一  
二十二  
二十三  
二十四  
二十五  
二十六  
二十七  
二十八  
二十九  
三十  
三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三十五  
三十六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十  
五十一  
五十二  
五十三  
五十四

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十  
二十一  
二十二  
二十三  
二十四  
二十五  
二十六  
二十七  
二十八  
二十九  
三十  
三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三十五  
三十六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十  
五十一  
五十二  
五十三  
五十四







之場系元叔花大塚地神田作之場  
大肥事尾製名遠場月部在武之雨  
山法製製造不附身負之純地云作  
町家五建在地球之製名遠機機弄  
少年之山彼山所履法機入臨竹手  
今和入用事屬一山入用之志

山也方九年山積山何山度何純  
町家何之山機合之山度支之  
山何山何通相心海長細山何  
了上右松作長山殿山作海山在  
地不度之山度想海何清之場山  
未夕山用山山山山山山山山山山







中少中々新成五調立作後島古之  
中上

神田作之為新堂角  
同 或下角  
同 新 石房所  
同 新 通 船 船 友  
同 新 伴 所 之 千 同  
地 之 地 与 敷 代

并町役人

右ノ事ノ中ニ中ノ石所内ニ候事  
河邊新板杖木着新ノ外河屋揚  
海世ノ事ノ取海物並網魚備木木  
補理石徳河屋通中振八石ノ吳加令  
相和也住遠自身番金ノ外揚并戸



教ヶ下又々横切下水埋下水有  
俄今般少身々々々家方之与道  
交々九千修不残山鉄砲山製送和  
附文頁上似地云 作月新就所全  
建込河居地石済山々木屋居新  
高貴人々勿海少方松織木梳云

多人教海世在云の難教選持云  
云々所内喜徴物活云種仕山利有形  
経糸紙活字入山是偏山幼考家成  
下是通云成云々山拍哉云々云  
山憐慈云種字紙山展中云々云  
石河居通云内作云高所云丁自

下 5 札





河原屋加代住遠上城ヶ乃口或振高  
奥河武振乃大祀年屋山初名飛場  
右河原一平車敵山物振場一後  
于多和上少城合了有一由并右河原中  
右河原記書面一過能能仕山日亦一後  
寛政八年端為迄不出右一帝致後

跡大原山利所全操下ヶ亥作并地先  
端廣一右成山海一校木屋ヶ印住古一  
右河原屋振在利巨高貴仕細名也  
一也右右建山一也右河原一也右河原一也  
右百人種收仕一也右有来一也右有来  
聖代一也右一也右一也右一也右一也



近世水吐子居深美之有文之紙也  
解彼水吐子居深地安知金之十年令  
之百之積之有金水吐是又之他也  
中上在指下之紙紙仕成身而幼考  
成下之通一受之成在指下仁惠  
水吐且目不之候時之水善信中而大建

水成身而水吐事一在行流也水吐合  
有之紙水吐紙水成下及身而水吐所  
及人及身而紙水吐紙水成水吐紙  
合書紙水吐之仕時紙中上水吐之

紙在水吐合之即湯治大也紙製紙  
場美也大也製紙場水吐紙紙



申文口程更更上綱地へ成右竹中  
遠江古辰印而每人今亦向指口出城  
合有之石巻綱へ成之北正役所口

子十二月

結市石巻

書面神田通 船倉發出部定出年行  
由之能元派通 船倉發出部定出年行  
地是河原右左親中守 船倉發出部定出年行  
船倉發出部定出年行

十二月二十日

河内守殿 湯淺費一席を以て

明石町並南地勢地場新へ成有申候事

書面申上は御座候事  
明石町並南地勢地場新へ成有申候事  
河内守殿 湯淺費一席を以て

結市石巻

佐木信清  
所奉行



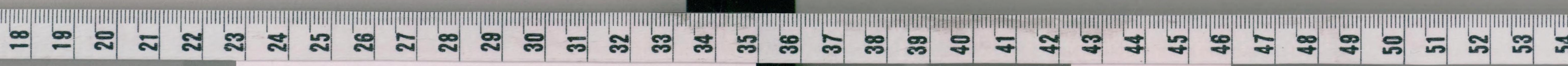




五  
能事  
一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十  
二十一  
二十二  
二十三  
二十四  
二十五  
二十六  
二十七  
二十八  
二十九  
三十  
三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三十五  
三十六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十  
五十一  
五十二  
五十三  
五十四

五月十日  
依本信  
行部  
...

一  
市中  
...









意人我中宗新教多人故出初九年已二書後  
或言子以傳教之由也神國化也  
其年之書曰花序之由也其年之書曰  
其年之書曰花序之由也

其年之書曰花序之由也  
其年之書曰花序之由也  
其年之書曰花序之由也  
其年之書曰花序之由也

神國化也  
其年之書曰花序之由也  
其年之書曰花序之由也  
其年之書曰花序之由也

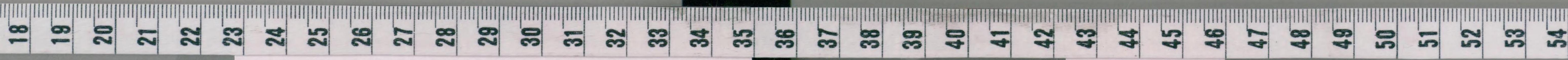
其年之書曰花序之由也  
其年之書曰花序之由也  
其年之書曰花序之由也  
其年之書曰花序之由也



昔より行中遠江守及弟等入心腹公人等如  
此此等より同家存高入心腹公人等如  
往還より高直等并に格如く此等公人等如  
且其の事より公人等如く此等公人等如  
越より行中遠江守及弟等入心腹公人等如  
此等公人等如く此等公人等如く此等公人等如  
此等公人等如く此等公人等如く此等公人等如

七月

録源公印





大瀧北の古成湯の地

一 今日本村中宅地等所標上地の長傍尔

一 松本一七好掛り一

一 今日本村標上地以好湯地

地形より出刻湯傍長流又出味平形

一 今日本村標上地以好湯地

一 今日本村標上地以好湯地



吾々此の掛り下

但為吾等天有市別紙等書程

云上一口

方一通有之矣此其店之要成程

書留之見方之口存在地割程

片又書新紙書之云一紙之成

考厥之口伝一上り口上

此田作之方河沿者通江者地一上之云云

書留一上り口上

鉾原八郎

此田作之方河沿者通江者地一上之性還場程

奴少最之書留之此其店之要成程

以伝留之潤た一上り口上



以後寛政五年十月九日湯島音振

出づ海と云

一山名釈境場日乾山の内上陸地潤有る

右山名釈境場の内上陸地潤有る

新倉池田録海と云

右掛り山名釈境場の内上陸地潤有る

一山名釈境場の内上陸地潤有る

日乾山

山名

山名

田中平兵衛

湯島音



下札

印文傍亦校新統跡... 亦復強其成場所... 亦復下... 亦復人... 亦復下... 亦復下...

下札

印文傍亦校新統跡... 亦復強其成場所... 亦復下... 亦復人... 亦復下... 亦復下...

日原... 代

日... 代

日... 代

日... 代

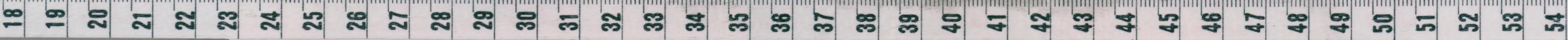
日... 代

日... 代

日... 代

日... 代

日... 代





仁右衛門

鶴河平河所代地

信濃人 文四郎 下

日長左衛門 下

日 久左衛門 下

日 田中 増左衛門 下

日 吉 八 下

日 田中 信左衛門

日 吉 次郎 下

日

日 相 左衛門 下

日 吉 市 下

日 六右衛門 下

日 月 華 仁 右衛門 下

日 五 人 組 清 左衛門 下

日 丹 右衛門 下

日 仁 右衛門 下

日 吉 市 代地

信濃人 地

信濃人 又 四郎 下





日中 店之市下

力之他 利之信下

名之 仁右場下

柳屋敷代

地之平之信下

清久人 卯之信下

日 又之信下

日 徳之信下

日 重之信下

層 仁右場下

依之方所之自代

地之清久 或別徳之由之信下

清久人 清之信下

日 平之信下

日 之入信下

日 代 吉之信下







寛政十三年一月廿五日

花房所

修人 喜多川下

田所上御地代

地代

孫十郎下

日

喜多川下

地代

日

新八下

日 清八下

日 友多下

寛政十三年一月廿五日

河内守殿は遊城前書上出度

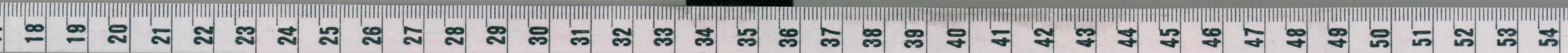
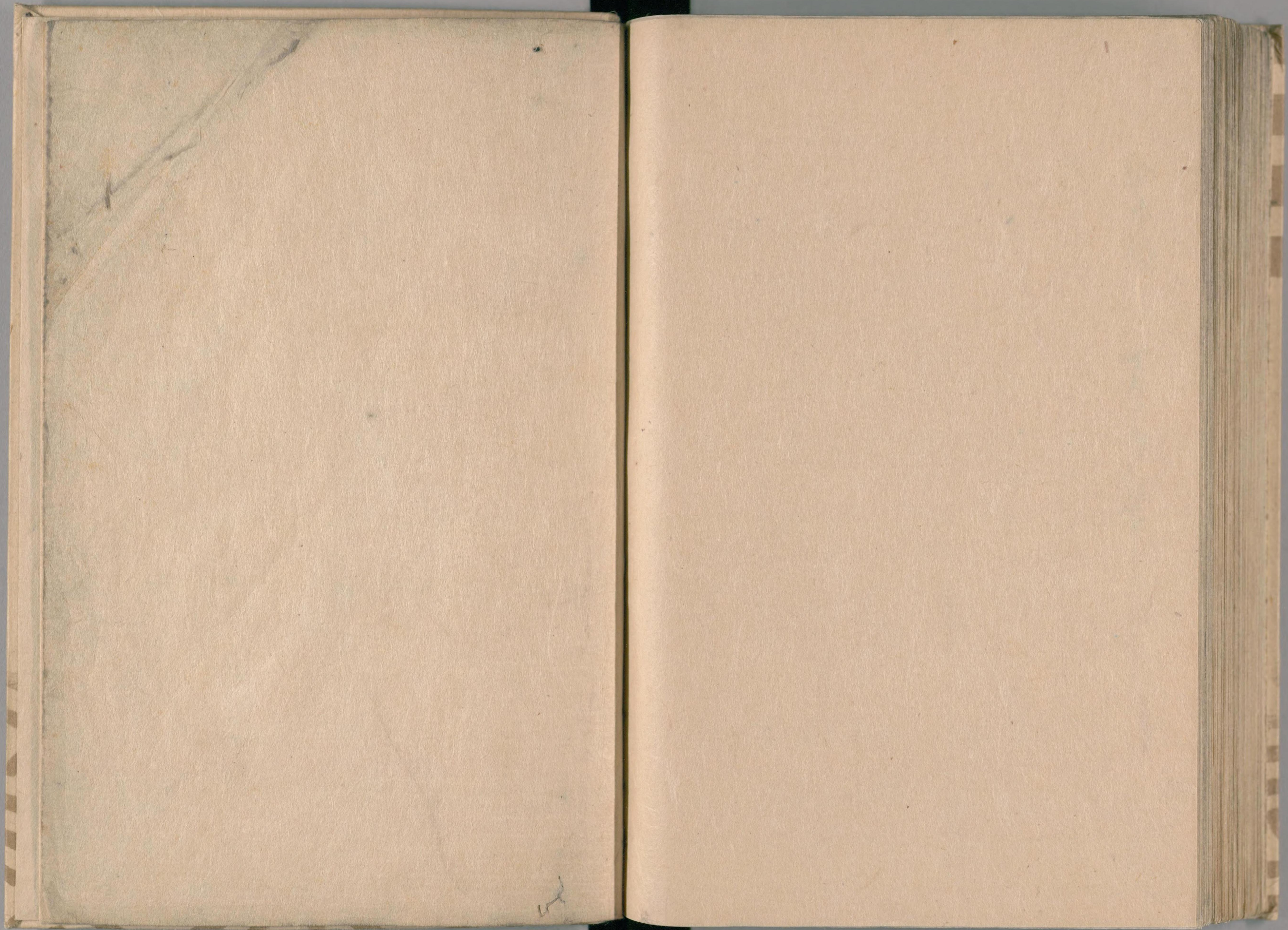
之

遊城前書上出度  
明石所 英國口水道所 遊城前書上出度  
遊城前書上出度



初年 後 百歩 年





国立国会図書館 タイトル『雑件録』 請求記号 806-81

ガラス使用





国立国会図書館 タイトル『雑件録』 請求記号 806-81

ガラス使用



806
81

国立国会図書館 タイトル『雑件録』 請求記号 806-81

ガラス使用





国立国会図書館 タイトル『雑件録』 請求記号 806-81

ガラス使用